

2022 年度 (令和 4 年度) 学校評価自己評価表

福山市立大門 中学校区 校番 24 福山市立 大門中 学校

最終更新日 2023年(令和5年)2月24日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する。 情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力が弱い。 自尊感情が高まり、主体的に行動する姿が見えつつある。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感性</p> <p>自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取り組みをする。(年3回アンケート実施) 学校における働き方改革を進める。
---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>確かな学力と豊かな心を備え、物事を深く考え行動する生徒を育成することで、地域の信頼に応える。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感性</p>				
<p>学校教育目標</p> <p>「よりよく生きる」力の育成 ～自律・挑戦～</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>1年</p> <p>疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を発見している。</p>	<p>生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明をしたり、適切な方法を選択したりして表現している。</p>	<p>集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。</p>	<p>仲間とともに、何かを成し遂げた成功体験をもとに、人と人とのつながりの中で、助け合い励まし合って行動している。</p>	<p>相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。</p>
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章の内容の話題や方向を捉えて、自分の考えをもち記述することに課題がある。 ○与えられた課題や役割は責任を持って果たそうとするが、発展的に取り組む意識が低い。 ○自尊感情の高まりは見られるもの、克服できない生徒が固定化されている。 <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識や技能の習得だけでなく、「できる」を「わかる」にするための生徒へのかかわりが十分ではない。 ○解決しようとする課題について、調べたことを比較・分類したり、自分の考えを周囲に積極的に発表したりする生徒が増加していない。 ○単元における指導と評価の一体化において、指導に生かす評価と記録に残す評価が計画的ではない。 	<p>2・3年</p> <p>生活や実社会と関連付けた課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。</p>	<p>生活体験や既習事項から判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、情報を他者と共有しながら、必要な選択をし、表現している。</p>	<p>集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、粘り強くやり抜くことができるよう行動している。</p>		
		<p>テーマ 学び続ける生徒の育成</p> <p>研究 内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題を発見し、その課題を解決する方法を自身で考え、行動する力を獲得する。 ・できなかったことができるようになり、またできるからわかるようになり、さらに活用、発信していく力を獲得する。 <p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の中でつきたい力を意識した、授業展開を行う。 ・生徒が興味を示し、意欲をもつような題材を設定し、それをもとに生徒が主体的な活動を行っている授業を確立する。 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大門中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	基礎学力の定着と学びに向かう力の育成	★	新規	主体的対話的で深い学びの推進【課】【主】	学習端末を積極的に活用しながら、生徒が自ら考え、意見を交流する場面を仕組む。	生徒アンケート「学ぶことが面白い」、「意欲的に学んでいる」75%以上	学期末生徒アンケートで「学ぶことが面白い」73.4%、「意欲的に学んでいる」82.4%	3	3	学力の伸びの調査の分析を個人・各教科・各学年で行い、改善策を実施する。また、授業の相互参観を1人1回以上する。	学期末生徒アンケートで「学ぶことが面白い」76.2%、「意欲的に学んでいる」80.1%	3	4	3	学力調査の分析をすると共に授業の相互参観を継続し、教師個人・各教科・各学年で改善策を実行する。また学習方略を学習者自身も見直し深化させる。
5	主体性・積極性の育成	★	継続	主体的に自治活動をする生徒の育成【課】	年間を通して縦割り集団を活用した自治活動(城興CUP)を仕組む	生徒アンケート「自分は周りから認められている」80%以上	学期末生徒アンケート「自分は周りから認められている」78.9%	3	3	城興CUPを絡めた活動を継続する。点検活動だけでなく、生徒の主体的な活動を仕組む。	学期末生徒アンケート「自分は周りから認められている」81.3%	3	4	3	城興CUPを中心とした活動を継続する。また、読書通帳など生徒の主体的な活動を生徒自ら企画・実施させる。
7	自己の健康管理と体力の向上に取り組む生徒の育成		見直し	意欲的に体力向上に取り組む生徒の育成【主】	体育の授業や部活動、家庭での体力づくりを仕組む	運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合前年度以下	学期末生徒授業アンケート「運動やスポーツが嫌い・やや嫌い」昨年度11.9%今年度8.2%	3	3	健康と運動との関わり・重要性を伝えていく。また、運動のやりがいや楽しさを感じられる授業を仕組む。	学期末生徒授業アンケート「運動やスポーツが嫌い・やや嫌い」7.7%	4	4	4	運動のやりがいや楽しさを感じられる授業を継続して仕組む。また、生徒が意欲的に活動ができるような導入を実施する。
1	教員一人一人が持っている力を高め、発揮できる環境の整備	★	新規	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境の充実【課】	学校全体で業務の効率化と精選を図るとともに、授業改善を進める雰囲気づくりを行う。	教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」90%以上	教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」93.8%	3	3	教職員が自己決定する場面をつくりながら、業務の効率化を進める。	教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」93.8%	3	3	3	・目標を明確にして業務を見直す。 ・タイムマネジメント等を意識し働き方を不断に見直すとともに、心身ともに健康を維持できる職場づくりを推進する。
8	保護者・地域から信頼される学校経営		見直し	持続的に地域貢献する生徒の育成【共】	・校外外で生徒によるボランティア活動を仕組む。 ・Webを使ったライブ配信等による積極的な情報公開	・ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数1000人以上 ・行事や授業Web公開10回以上	・ボランティア活動に参加した生徒は延べ133人であった。 ・web公開行事関連では7回、授業公開は適宜実施した。	3	3	・生徒会の企画するボランティア活動を仕組む ・web公開を継続する。	校外内のボランティアに参加した生徒はのべ743人であった。またweb公開行事関連では計10回、授業は適宜公開し、的確な情報を発信することができた。	3	3	3	生徒自身が考えるボランティア活動を実践させる。また、ボランティア活動を含む近況を学校HPやGoogleクラスルームを活用する発信を継続する。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。